

THAILAND ECONOMIC UPDATE February 2021

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย
KASIKORN RESEARCH CENTER



12月のタイ経済は不均衡な回復傾向が続く

▶ 要点

- ▶ 2020年12月のタイ経済回復は緩やかながらも不均衡な回復傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の流行の第2波が発生したことを受け、一部の経済活動に影響が出始めたためです。しかしながら、民間消費、投資、輸出が前年同月比で依然として拡大しています。
- ▶ 2021年1月の消費者物価の上昇率は、前年同月比0.34%縮小し、11ヶ月連続のマイナス伸びでした。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は同0.21%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいでした。
- ▶ カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイの新車販売台数が前年比7~11%増の82万5,000~85万5,000台に達すると予測しました。ただし、新型コロナウイルス感染症対策に伴うロックダウンが起きないことを条件としています。
- ▶ 一方、電動車は各社が1台100万パーツを下回るモデルを投入し始めたことから販売が大きく伸びる見通しです。ハイブリッド車(HEV)とプラグインハイブリッド車(PHEV)が10~23%増の4万8,000~5万台、電気自動車(BEV)が176~245%増の4,000~5,000台と予測しました。

▶ タイ経済の動向

2020年12月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2020年12月の重要な経済指標によると、タイ経済は回復が続いているものの不均一な状態となっています。新型コロナウイルス感染症の流行の第2波が発生したことを受け、一部の経済活動に影響が出始めたためです。しかしながら、民間消費、投資、輸出が依然として上向いています。

12月の民間消費は前年同月比2.7%上昇し、2ヶ月連続でプラス成長になっています。しかし、新型コロナウイルスの第2波の影響により、前月比では2.9%下落しました。耐久消費財が6.9%増だった一方、旅行者の支出が91.9%減、サービスが28.3%減、非耐久消費財が1.1%減、半耐久消費財が0.6%減となりました。

一方で、民間投資は前年同月比4.5%上昇しました。

2020年12月のタイ経済指標成長率 (Y-O-Y: 前年比)



商用車の購入が27.7%増、国内の機械販売と機械・設備を中心とした資本財の輸入がそれぞれ5.4%増、建材の販売は4.2%増、建設認可を受けた土地の面積は10.0%減でした。

12月の輸出は、前年同月比4.6%増の199億米ドルとなりました。前月に引き続き上昇傾向になっています。金を除いた輸出額は4.9%増の197億米ドルでした。金と石油関連製品を除いた場合は5.4%増でした。

工業生産に関しては、前年同月比2.4%減となり、前月のプラス成長からマイナス成長に転じました。国内需要が縮小したことが原因でした。

観光業では、外国人観光客数が前年同月比99.8%減となりました。タイ政府は10月からタイに最長270日間の滞在が可能となる特別観光査証を取得した外国人旅行者の受け入れを開始したが、入国者はわずかでした。

2021年1月のタイのインフレ率

商務省が発表した2021年1月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比0.34%縮小し、11ヶ月連続のマイナス伸びでした。なお、同月から基準年を従来の2015年から2019年に変更し、指数算出の対象品目も422品目から430品目に増やしました。

品目別にみると、非食品・飲料部門が前年同月比0.83%低下しました。運輸・通信は、1.86%低下しました。一方で、食品・飲料部門は前年同月比0.58%増でした。ほぼ全ての品目が上昇しました。とりわけ、果物・野菜が3.38%増、調味料が3.11%増、肉・魚が1.34%増となりました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.21%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。

12月の輸出は、前年同月比4.6%増の199億米ドル。

図1：民間消費及び民間投資（成長率：前年比）

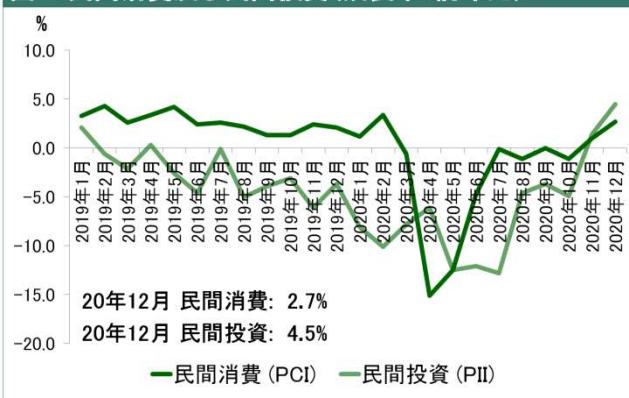


図2：輸出、工業生産、外国人観光客数（成長率：前年比）

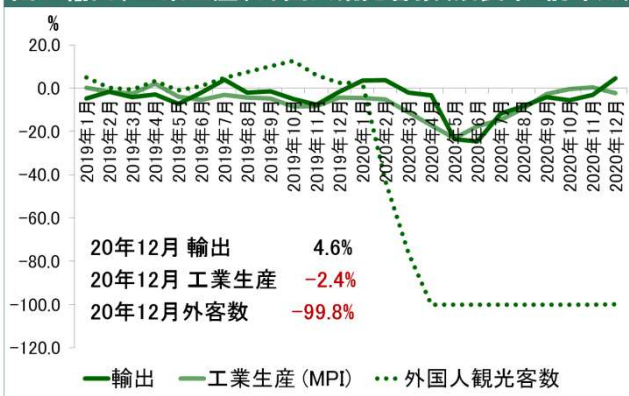


図3：ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

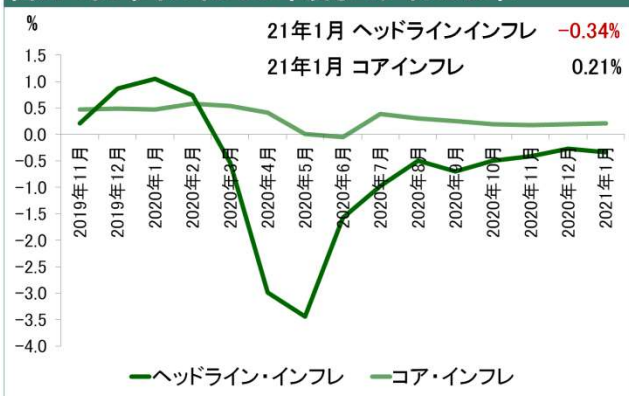


図4：食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所：タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

2021 年のタイ国内新車販売、7～11%増予測

カシコン・リサーチセンターは、2021 年のタイ国内新車販売台数が前年比 7～11%増の 82 万 5,000～85 万 5,000 台に達すると予測しました。ただし、新型コロナウイルス感染症対策に伴うロックダウンが起きないことを条件としています。

2020 年通年のタイの新車販売台数は前年比 23.6%減の 77 万台と予測しました。2021 年の内燃機関車の販売は、2020 年に大きく落ち込んだ反動などから、5～8%増の 77 万 3,000～80 万台に回復する見通しです。車類別では、多目的車 (MPV) やスポーツタイプ多目的車 (SUV)、乗用ピックアップ (PPV)、ピックアップトラックが伸長すると見込みです。

一方、タイの電動車 (xEV) 市場は、まだ小さいですが、大きな成長が期待できます。最近、電動車は各社が 1 台 100 万バートを下回るモデルを投入し始めたことから販売が大きく伸びる見通しです。ハイブリッド車 (HV) とプラグインハイブリッド車 (PHV) が 10～23%増の 4 万 8,000～5 万台、電気自動車 (EV) が 176～245%増の 4,000～5,000 台と予測しました。

2021 年のタイ国内新車販売、7～11%増予測。

図5: 2020～2021年タイ国内新車販売台数の予測

新車	2020 ^F		2021 ^F	
	台数	%YoY	台数	%YoY
国内販売台数	77万0,000	-23.6%	82万5,000 ～ 85万5,000	7 ～ 11%
- 内燃機関車 (ICE)	73万7,550	-24.8%	77万3,000 ～ 80万0,000	5 ～ 8%
- ハイブリッド車とプラグインハイブリッド車 (HV & PHV)	3万1,000	17.0%	4万8,000 ～ 5万0,000	10 ～ 23%
- 電気自動車 (EV)	1,450	102.0%	4,000 ～ 5,000	176 ～ 245%

出所: カシコンリサーチセンターの予測

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.